

平成26年3月18日全員協議会決定

委員会行政視察報告書

委員会名 <u>総務文教常任委員会</u>				
活 動 委 員 名				
山 田 洋 子		斎 藤 重 美		
小笠原 茂 子		畑 山 親 弘		
工 藤 正 廣				
野 月 一 博				
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
670,355	0	4,954	112,551.5	675,309
期 間 (年月日)	平成26年 7月 17日 ~ 平成26年 7月 19日 (2泊3日)			
視察事項	1) 夢ある子とくまの森について 2) 移住・定住支援事業について			
視察先	1) 福井県 越前市 2) 石川県 白山市			
内容及び成果				
<p>○越前市 越前市議会 川崎誠一 同議会事務局長、夢味の池田長等が中心となり、越前市は平成17年10月1日に旧武生市と旧今庄町の合併により誕生し、市で人口は平成31年4月1日現在で約75千人で福井県に県都福井市と坂井市に次ぐ大規模都市で、市の中央と周囲、中央圏など主要都市との交通の節眼である北陸内海東道と国道号線と縦断し、平成5年に北陸幹線が延伸される都市である。</p> <p>この、当市は歴史時代の大化改新の地、越前国府があった北陸地方の政治、経済、文化の中心地として栄え、市で昭和31年に建築された市役所が老朽化、耐震化の度合い、合併特例債で今年12月頃まで新庁舎が建設中、1月からの新庁舎で仕事を始めることである。</p> <p>また、1500年の伝統を誇る「越前和紙」や700年の歴史を誇る「越前打刀物」に代表される「越前筆司」が工芸品として「ものづくり都市」として発展している状況である。</p>				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

越前市の夢ある子の育成事業は平成20年度から市長の発案に  
よって、地域社会におけるものであるが、その取組みは、小学生、中学生は  
別論、小学生の範疇に、応用紙、広く紙とスポーツ、読書者、教育関係  
者、伝統工芸品等にも取り組むこと、特に小学生の範疇から夢と目標  
とつながる取組みの中心とせられた。

ちなみに越前市の平成20年度の小学生6年生の全国学力、学習状況調査  
結果より、「将来の夢や目標をもとに、この力」の項目に、越前市は62.2%、  
福井県では69.7%、全国では67.6%と全国平均より低かった。  
しかしながら平成20年10月、越前市長が日本サッカー協会の小宮純二副  
会長（早稲田大の同窓生）との協議により、JFAの「夢の教室」の紹介  
を受け、地元、味真野小学校5年生で「夢の教室」モデル授業を実施  
したことがあった。

この結果、「夢の教室」に参加した子どもは児童の理想は初めてよく  
有名なスポーツ選手を通じて将来に夢を希望するという目標を持つ  
ことの大切さを肌で感じるようになったようである。

このことにより、日本サッカー協会と契約している事業「JFA」の30%  
の外、夢の70%以外、を活用し、平成22年度から福井県全小中学校（17校）に  
夢の教室を実施、併せてこの70%以外、日本サッカー協会、夢の10%  
アツタチャレンジ、越前県学生協同事業（平成200万円助成）を行なうこ  
とになった。そして平成22年度への段階まで、中継ぎの対象に夢の教  
室を実施し、今後にも予定あり、その結果、将来に夢を希望する  
113割合は小中学校も中継ぎも高くなった。（別紙資料参照夢ある  
子の育成事業、2018レポート）

このように結果により平成30年4月「元気の自治体 越前」を創造  
するための推進の4年度目標とされたことである。  
JFA 30%の70%以外、夢の70%以外、協賛に113自治体は2008  
年度は3自治体であった。2019年度は170の自治体と協賛可能  
年度とされたことである。  
なお、計画の中で2019年度に目標とされたこと。

※子どもの夢や目標の達成への取り組みは、この取り組み（外資協会の  
進んでいくことと関係）（勉強会や教員の高まり）と見られます。

○ 白山市 白山市議会 石地議員の徹底の挨拶より、企画振興部の定住  
支援課 鶴尾課長、同北嶋課長が、東松島町 町会 小林専任委員の挨拶より  
白山市は平成17年2月12日一市二町三村と合併し、人口1万7000人で  
石川県では今年中に次いで多い一方で面積も255km<sup>2</sup>で、石川県内では  
最大の市である。

石地議員は、鶴尾の挨拶で「柿は伝説の汁」で一億のまちで、  
3月10日 知事御前演説（石川）で「本市は霊峰白山から日本海へ続く谷の  
地形の「調子」が、ゴッホの「北の窓」で1300の歴史の町、又併せて  
白山市では「通年議会」であること、去前議会は一年の4つの議  
会があること、というところから述べた。

視察目的は移住・定住支援事業について、鶴尾課長、北嶋課長、  
並に東松島町から到着資料「伝説の汁 白山市」を「教建」で355  
白山市「伝説の汁」白山市 及び「初年度視察団用」の印刷品  
「移住・定住支援事業」について、説明資料を説明した。

何故か新村に「少子高齢化社会」今日、移住・定住促進事業並に  
「子供手当」の削減、保育料の軽減、水道料金の値上げなど、19%  
の削減に「いそがしい」白山市は徹底して支援策を打ち出すこと  
を望むこと。

例として「短期移住宿泊体験補助事業」定住促進奨励金、中土（定住）  
購入事業補助金、新婚夫婦留宿住宅家賃助成、世代同居  
定住促進事業補助金、並びに、白山次郎町で新築住宅（建355協会の  
への奨励金など。

2016年より（H28）より、2015年以降減少傾向の傾向の  
外から、新築住宅件数も、平成27年以降、700件を超えてきた。活  
びの増加が感じられる。

\* 本市への定住・移住促進の施策の要因を調査し、50%の  
平成13年国勢調査の人口増加の傾向を分析（50%）の概  
況を明らかにし、平成27年  
「新築」の課題を調査し、移住促進、新築促進の状況や  
その要因を明らかにし、その要因を調査した。

福井県越前市

令和元年7月18日

## 夢ある子ども育成事業について

### 越前市の児童の実態

平成20年度の全国学力・学習状況調査結果、全国よりも低かった。また「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合が少なかった。

日本サッカー協会 小倉順二副会長(当時)から「夢の教室」の紹介を受けた。

- ・市長、市教委員会、校長、教頭代表が参観
- ・担任教諭、児童の感想を検討

### こころのプロジェクト「夢の教室」モデル授業の検証

#### 参観者の感想

- 自らの体験をもとに伝えたメッセージには強さがあり、児童に響いていた。
- 児童とのコミュニケーションを図りながら、弾きつけるうまさがある。

#### 授業者(担任教諭)の感想

- 学級の実態や気になる児童の様子など、事前に細かく打合せできたので、安心できた。
- 体験談に非常に興味を持ち、目を輝かせて聞き、発言していたと評価。

#### 児童の評価

- 自分も夢を持とうと思った。
- 夢をかなえた人にも、必ず挫折や苦しいときがあったことがわかった。

### 検証の結果

◎現場実態に合った有効な活動であると判断。

H21年度から市内全小学校(17校)で「夢の教室」を実施

夢ある子ども育成事業が始まる。

～DREAM「夢」って、すばらしい～

越前市未来を担う子供たちが、夢を持ち、夢に向かって努力することの大切さや素晴らしさについて学ぶ機会を設けた。

日本サッカー協会と契約している事業

夢の教室

JAF「こころのプロジェクト:夢の教室」を活用し、全小中学校を対象に夢について考える授業を実施する。

越前発 夢先生協働事業

- ・夢先生部活動訪問 中学校の部活動に夢先生が訪問し、専門的な指導をする。
- ・スポーツレッスン スポーツ少年団・クラブ等を対象に専門的な指導をする。
- ・市民みんなが元気に生涯スポーツ 障がいの有無や年齢にかかわらず、誰もがスポーツを楽しむ環境づくりの支援を行う。
- ・越前和紙をPR 越前和紙を使用した賞状・天皇杯ポスターを作成し、越前和紙をPRする。
- ・大人の夢教室 小中学生の保護者を中心とした子育て世代の市民を対象に後援会を行う。
- ・モノづくりプロジェクト
- ・ロボットコンテスト
- ・夢レベルアップチャレンジ

子供たちが夢を描いて、その夢を現実のものにそしてまた、自分のものにして頑張れる事業だと思いました。

わが十和田市もこの事業を行っていますが、予算面で少ないと思います、越前市位の予算を確保して頂きたいと思いました。

石川県白山市

令和元年7月18日

移住・定住支援事業について

(1) 白山市の移住支援事業の概要

白山市短期移住体験宿泊事業補助金(令和元年度～)

(目的)

- ① 白山市内で住居または仕事を探す活動等を行うために市内の宿泊施設に宿泊する物に対し、予算の範囲内で補助金を交付し、本市へ移住、定住を

図る事を目的とする。

(対象)

石川県外に住所を有する物で、移住、定住を目的として本市を訪問し、移住、のための活動を実施する者およびその同行者 1 名

(補助金額)

市内に宿泊した際の基本宿泊料金の 2 分の 1 に相当する額

② 白山市移住、体験促進事業補助金(令和元年～)

(目的)

白山市内で住居又は仕事を探す活動等を行うために市内で体験活動を催す団体に対し予算の範囲内で補助金を交付し、本市への移住、定住を図ることを目的とする。

(対象)

移住、定住を目的として事業を行う団体

(補助金額)

移住体験事業に係る経費の 2 分の 1 に相当する額で、50,000 円を限度とする。

白山市は豪雪地帯で人口も減っていたそうですが、定住促進制度による転入者の増加に伴い、新築住宅着工件数も平成 25 年以降増加している。

十和田市も都市部・集落部担い手が少なくなっていると思います、地域を語り継ぎ守れるリーダーを育て、今以上に活気があって貫きたいとつくづく思いました。

## 総務文教常任委員会 行政視察報告書

山田洋子

1. 日 時 令和元年7月18日 9:00～10:30
2. 視察先 福井県越前市
3. 視察事項 夢ある子供育成事業について
4. 視察内容

福井県越前市で「夢ある子供育成事業」について。

越前市では平成20年度の全国学力学習状況調査において、将来の夢や目標を持っているかとの質問に対し、持っていると回答した小学校6年生は63.2%であった。学力は全国平均より上であったが、この夢や目標を持っているかとの調査では福井県や全国平均を下回っていることがはっきりとした。この調査をうけ平成21年度から市内全小学校17校で、平成22年からは市内全中学生を対象に、夢ある子供育成事業に取り組み、平成30年度には、同じ調査の夢や目標を持っている子どもの割合が、小学生では全国平均を13%、中学生では24%以上高くなった。十和田市でも日本一を目指した特色ある教育推進事業を行っており、またこの越前市と同じJFA公益財団法人日本サッカー協会のこころのプロジェクト事業の一部を取り入れているが、この越前市での成功している事例を参考にできるところがあればと考えた。JFA夢の教室は市では当市では一部の小学生のみを対象にしているが、越前市では全小学校6年生を対象に行っていた。過疎地域の小学校でも6年生のみ、大規模学校ではクラス単位で行っているところは素晴らしいと感じた。今年度700万の予算で行えるということである。トップアスリートや第一線で活躍しているアナウンサーなどを講師に招いているが、受講後に子供が感想シートに対し、1人1人に手書きでの回答を行っており、子供に対しては力を与えてくれる授業であると感じた。

子供たちを教育するという事は、地域との繋がりを大事にし、地元に対する愛着を育んでいくという当市の教育にも、深くつながっていると感じた。当市との相違は、徹底しているJFA事業の活用や、ロボットコンテストや練習試合や大会などの活動費の助成を行う市独自の政策などがあった。いずれも低予算で10年継続して行うことができる、実態に合う事業である事がわかった。

子供の教育レベル向上に関しては大きな予算をかけていない中で、当市に合う内容で再構築し検討できるようにという考察を深める視察だった。

1. 日 時 令和元年7月18日 13:00～14:30
2. 視察先 石川県白山市
3. 視察事項 移住・定住支援事業
4. 視察内容

人口減少は当市でも対策に取り組むべき課題の1つであるが、この白山市は東洋経済新報社が発行する2019年「住みよさランキング1位」になり、2018年は子育て世代が住みたい田舎部門で北陸エリア1位になっている。白山市が市街地から山間の過疎地域までの広い市であったため、当市の参考になるところもあった。

白山市は石川県金沢市の隣町であり、金沢市まで車で20分～30分ほどのところにあり、1市2町5村が合併した出来た市であった。

白山市の定住促進支援制度を見ると、手厚い切れ目のない支援が整っていた。

家を建てるなら！住むなら！という補助制度を下記に一部抜粋する。

- 平成27年度から土地区画整理事業をすすめ、駅近く、ショッピングモール近く、スーパーがちかい、様々な宅地から選べるようになっている
- 「定住促進奨励金」市外からの転入者が新築する際には、最大80万円
- 「若年層定住促進奨励金」45歳未満で新築する人には、最大30万円
- 「白山さんろく地域定住促進奨励金」過疎地域で新築をする人に、最大100万円
- 市外からの転入者または45歳未満で中古住宅を購入する人に最大30万円
- 市産の木材を使用する人に、50万円の補助制度
- 「新婚夫婦賃貸住宅家賃助成」民間のアパートに住む新婚さんに月額5千円×12ヶ月
- 空き家バンクの所有者と買いたい人・借りたい人をマッチングし、改修費最大50万円
- 保育料は2人目・3人目から所得制限のない軽減策
- 一時保育や休日保育、育児保育、ショートステイ、夜間預かりなどの32か所
- 子供の医療費が18歳まで無料
- 不妊治療助成、不育症治療費助成
- 市内循環コミュニティバスは20ルート
- 過疎地域限定で、高校生の通学費一部補助、起業をすると最大210万円補助など

そのほかにも様々な助成制度やサポート体制が充実していた。金沢市から近く、ベッドタウンのような立地の良さはもちろんあり、税収も多いため、その分予算配分なされる割合も多いという面もあると考えられる。そのため当市で同じようにということはできないが、生活のための助成や子供の医療費助成、また宅地分譲に伴う助成には、魅力を感じている人が多いということであった。

過疎地域は当市の現状と同じように、さらに過疎化が進んでいるようだが、その地域に住む子供が高校を卒業するまでの間の助成制度の充実は、当市でも要望としてあがっている点であり、導入していければ過疎化の減速につながる1つになるかと考えられる。



## 行政視察に参加して

十和田市議会総務文教常任委員会で、行政視察に行ってきました。視察先は福井県と石川県です。青森から向かうわけですから、移動に往復二日を要しましたが、初めての視察になり、議員としての自覚を認識しながら、道中での交流も少しは深まったような気がしています。まず、三日間議会事務局の村中さん、理事者側同行の村館さんお世話になりました。日程は7月17日～19日でした。移動のため18日の一日が研修になります。

午前中は福井県・越前市議会へ、そして午後は石川県・白山市議会へ。

福井県・越前市は平成17年10月に旧武生市と旧今立町が合併し誕生した町とのこと。人口が83,061人、世帯数は30,049世帯。驚いたのは製造品出荷額等が、県内第一位で、5,628億円というもの。その産業は越前和紙や越前打刃物、越前筆筒をはじめとする伝統産業から、幅広い産業が集積しそして県内第一位の「ものづくり都市」として発展。伝統産業も先端産業も、越前に生まれた文化人についても、触れる時間もなく、福井県越前市教育委員会へ。「夢ある子ども育成事業」のタイトルにも興味を持ちながら、その中味が凄い。公益財団法人日本サッカー協会から、「夢の教室」の紹介を受けたのが（平成20年）きっかけで、子どもの感想も「自分も夢を持とうとおもった。」「夢をかなえた人にも、必ず挫折や苦しいときがあったことがわかった。」など、その後平成21年度から市内全小学校（17校）で「夢の教室」を実施。日本サッカー協会と契約している事業で、JFA「こころのプロジェクト：夢の教室」を活用しながら、モノづくりプロジェクト・ロボットコンテスト・夢レベルアップチャレンジ・越前発 夢先生協働事業がすすめられてます。夢教室子どもたちと夢先生がメッセージを交わす「夢シート」で構成。後日夢シートには、子どもたち一人一人に返事を出すとのこと。対象が小学五年生と中学二年生が中心らしいが、常にプロジェクトをリフレッシュしながら発展させていく努力にはビックリです。子どもたちは沢山の学びがあり、様々なトップアスリートとの触れ合いが力になっているとおもいます。自治体との連携には、2008年度は「3」でしたが、毎年増加し2019年度には「170」の自治体が締結をしています。十和田市でも2016年に3クラスが実施されてました。先日配布された広報に「ゆめせん」のロゴ発見。

「夢の教室」実施までの手続きもパンフレットで、紹介されていますが、日本サッカー協会のこの活動を知らなかったの、すごい取り組みであることを知り、様々な支援とともに実施が全国に広がってチャンスを与えられたらと願わずにはいられませんでした。大人の夢教室もあり、PTA連合会などが、講演会を取組んだり、親自らが夢を持ち、それにむけて努力する姿を子どもにみせることが出来れば、また素晴らしい事だとおもいました。

午後は、越前市からJR北陸本線に乗り換え、白山市議会の送迎車にお世話になり、一時半からの視察になりました。白山市は、平成17年2月、松任市、美川町、鶴来町、川内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村及び白峰村の1市2町5村の合併で誕生したまちです。環境変化に富んだ市全域を「白山手取川ジオパーク」として日本ジオパークに認定された町。全国でも降水量・降雪量の多い地域に入り、全国有数の豪雪地帯にも関わらず、このような「住みよさランキング2019」とは、信じがたいとも言えず、豪雪のために半年は雪深い中にいるのではと考えてしまいました。平成27年に人口増に転換していること。どこの自治体でも少子化で悩んでいるときに、ここでは違うことにびっくりしました。

白山市では「移住・定住支援事業」がびっくりすることばかりでした。まず「住みよさランキング2019」で、白山市が全国第一位であること、「住みよさランキング」は都市の”住みよさ”を公的統計をもとに、「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」の視点から、ランク付けしたもののこと。2018年には、順位が25位だったのに、翌年には全国第1位。

白山市が高い評価を得た項目をみると、(1)子どもの医療費無料化(18歳まで年度末までの医療費を無料化)所得制限もなく、(2)水道料金(1か月、24m<sup>3</sup>使用)(3)人口当たり刑法犯認知件数(4)転出入人口比率の評価を得たためとなっています。項目をみても十和田市との差はあるのですが、地元自治体の状況をもっと知らなければ、そして市民の願いを実現していかなくてはと思いました。このほかにも沢山の住みよさを計る移住・定住支援事業が、軒並みでついこれなら当たり前かなと。特に白山市はお隣金沢市での、勤務があり、働く方がたがつまり働く場所があるのが魅力だと思います。子育て支援施策も、母子保健施策も充実しているのがいいですね。視察内容が移住・定住支援事業でしたが、施策がいいから人口も減らさずに来ているのかな。例えばパンフから見ると、白山市で家を建てると258万円の補助金が受けられたり、子育てでも「切れ目のない支援だったり、子どもの医療費が18歳まで無料だったり、広い範囲に満足度が満ち、市民の幸福感が伝わります。十和田市でも住みよさランキングが上位になるよう、一つずつ声をあげながら、みんなで幸福度が感じられるような町にして行きたいとおもいました。様々な自治体が行っていることをもっと身近に感じるよう、一步一步進めていきたいとあらためて思いました。

先日には、「子どもの明るい未来のために」というテーマで市議会・市民との意見交換会で討論もされ、子どもたちの明るい未来を作るために頑張ろうと決意を新たにしました。テーマが広がったのですが、いろいろな声を聞くことができ、よかったとおもいます。十和田市でも、大いに参考にしていきたいと感じた行政視察でした。

# 行政視察報告書

テーマ「夢ある子ども育成事業」

日時 令和元年7月18日(木) AM9:00

場所 福井県越前市

夢ある子ども育成は生涯教育である。越前市の奈良俊幸市長は、友人である日本サッカー協会の小倉純二副会長から、子ども達が郷土愛を持つための教育、育成のために、当協会で実施している事業「JFA こころのプロジェクト」を紹介された。市長は、教育委員会は基より保護者、PTA、教育相談者等とどのような形で子ども達に指導するか協議をし、「夢ある子ども育成事業」を立ち上げた。

この2つの事業のコンセプトは「夢」であり、様々なスポーツのアスリートを講師に迎え勉強する事業である。越前市で過去に子ども達に、「将来の夢や目標はあるか。」という調査をした結果、「ある。」と答えた子の割合は63%であり、全国平均の67%より下回っていた。この結果から今回の「夢ある子ども育成事業」に踏み切ったのではないかと思う。

この事業で驚いたのは、学校の授業のカリキュラムに組み込んで、全ての子ども達に授業として教育している事、また民間企業であるサッカー協会に対しても、予算措置している事である。

我が十和田市でも、誰でも「日本一になる」を目標に指導している事も大変素晴らしい事であるが、もう一步踏み込んで、このような指導、教育をするのも良いかと思う。

総務文教常任委員会  
工藤正廣

# 行政視察報告書

テーマ「移住、定住支援事業」

日時 令和元年7月18日(木) PM1:30

場所 石川県白山市

人口減少対策は全国自治体の課題であり、その対策に様々な施策を打ち出している。日本の人口は、東京に一極集中で全国の自治体は激減している。その原因は、東京には仕事がある、これにつきると思う。我が十和田市も合併時は69000人だったが、現在は61000人まで減っている。

今回の白山市は、移住定住政策が日本で一番成功している市である。白山市の合併は平成17年2月、1市2町5村の合併であったが、その時は109000人で、現在は110000人と増加している。事業としては

- 1.定住促進奨励金
- 2.若年層促進奨励金
- 3.白山麓地域定住促進奨励金
- 4.三世代近居同居促進事業補助金
- 5.中古住宅購入補助金
- 6.新婚夫婦賃貸住定家賃助成

特に申請者の年齢層は、30代が68.8%、20代が15.4%と圧倒的に若者が多いのには驚きである。そして、住定の着工件数は、751件と平均2000人が入居しており、その内訳は隣町の金沢市、野々市からの移住者が全体の7割を占めている。

この理由には、まず白山市の立地条件が不動産の宅地分譲が盛んであること、土地の価格が安いこと、補助制度が確立していること、そして金沢市への通勤距離が20分位であることなどが挙げられる。

また、子どもの育成に掛かる医療費、保育料の補助などが充実していて、白山市は金沢市のベッドタウン的な要素を持っている。我が十和田市にとってはうらやましい限りである。移住定住事業を実施しているものの、もっと踏み込んだ施策を実施するべきだと思う。

総務文教常任委員会

工藤正廣

# 総務文教常任委員会 行政視察報告書

野月 一博

期 間：令和元年7月17日～令和元年7月19日（2泊3日）

- 視察先及び視察事項：1 福井県越前市「夢ある子ども育成事業」（7/18 午前）  
2 石川県白山市「移住・定住支援事業」（7/18 午後）

## 内容及び成果

### 1 福井県越前市：「夢ある子ども育成事業」

#### 《概要》

越前市は、福井県のほぼ中央に位置し、市の中央を北陸自動車道と国道8号が縦断し、関西・中京圏などの主要都市や福井市・敦賀市など周辺都市との交通の動脈となっています。

面積は約230km<sup>2</sup>、人口約8万3千人、和紙・刃物などの伝統産業と機会・電子部品などの先端産業が盛んな市である。また、平安時代の作家・歌人である紫式部が多感な少女時代を過ごした地としても有名である。

「世の中 さまざまにつけて  
はかなくうつりかはるありさま」

中古三十六歌仙のひとりであり、主著「源氏物語」は世界最古の長編小説と言われている。紫式部公園があり、市民の憩いの場として利用されている。

#### 《視察内容》

「夢ある子ども育成事業」では

JFA「公益財団法人日本サッカー協会」の「こころのプロジェクト夢の教室」を活用し、夢の教室「ユメセン」として小中学校を対象に夢について考える授業を実施している。

小中学校の文化・体育活動の更なる強化を図ることを目的としている。

「夢」とはいったい何なのでしょう。煎じ詰めれば、その人の心に安らぎをそして「深さ」と「広さ」を与え、生きる夢と希望を持たせてあげることで、私は信じています。

児童の感想としては、自分も夢を持とうと思った。とか、夢をかなえても、必ず挫折や苦しいときがあったことがわかったなどの意見があるとのことであった。

地域の皆様をまとめ「対話」を大切に、次代を担う子どもたちが将来に夢を持ち、笑顔で暮らせる社会をつくり上げることが、私どもの使命だと考えております。

「夢を考えるきっかけ」を提供したい。子どもに、内なる心の成長があって、より大きく成長します。その心の成長には夢や目標の有無が大きく影響します。「夢を考えるきっかけ」をこれからも提供していきたいと思えます。

「励ましたつもりが 励まされている。」同じ言葉で勉強になりました。

## 2 石川県白山市「移住・定住支援事業」

### 《概要》

越前市は、白山市は、県都金沢市の南西部に位置しています。白山国立公園や、県内最大の流域を誇る一級河川手取川、白砂青松の日本海など、山・川・海の豊かな自然に恵まれた地域であり、海岸部から山間部まで、およそ2,700mの標高差があります。

総面積は754.93km<sup>2</sup>、人口約11万人であり、「住みよさランキング2019」で全国第1位となっている。また、独自の文化・歴史・自然なども豊かで観光産業はもとより、機械金属、IT、化学工業などのものづくり産業を中心とした企業の集積が進んでいる市である。そして、2019年開山から千三百年の時を迎えて霊峰白山。そんな白山に見守られている白山市です。

### 《視察内容》

「移住・定住支援事業」は、住みやすいまち、特に子育てしやすいまちとしてPRして、移住・定住を支援する事業である。

白山市で家を作る場合には、住宅を新築購入するときの補助制度が充実しています。最大258万円の市の補助金が受けられます。また、その他の補助金もあります。

白山市で子育てする場合の合言葉は「切れ目のない支援」であり、保育料が軽減されます。また、子育て支援医療給付金制度があり、子どもの医療費が18歳まで無料となっており、ほかにも様々なサポート制度や助成制度が充実しています。

白山手取川ジオパークに指定されており、テーマは「山―川―海　そしていのちを育む「水の旅」」となっており、その活用等にも力を入れている。

「十和田市とは何か？」という「他市のビジョン」を振り返り、私は「十和田市について」考えてきた。「正しいものの見方、考え方」というのは、できるだけいろいろな立場や視点からものごとに光を当てることであると思います。

私は移住定住の促進に当たっても、定住自立圏構想の共生ビジョンが重要になってくると考えており、当市のリーダーシップもさらに大事だと思っています。

議員は地域の住民の皆様に仕え感謝します。